



TOPICS

祝！県指定「西別府廃寺出土品」

去る令和 8 年 3 月 1 7 日付けで、西別府廃寺出土品の瓦、土器等、総数にして 254 点が埼玉県有形文化財・考古資料として指定されました。

西別府廃寺は、市内西別府に所在していた国史跡「幡羅官衙遺跡群」に関連する遺跡で、当時の幡羅郡の郡家（ぐうけ）（郡役所）に隣接し、その郡家と有機的に機能していた寺院（郡家附属寺院）です。

指定された出土品は、平成 2 年度、4 年度及び 28 年度に発掘調査を行った際に出土したもので、県指定文化財候補として、かねてから県文化財保護審議会による調査が幾度となく実施されてきていましたが、ようやくこの度念願叶っての指定となりました。

その内容は、屋根の軒先を飾った軒丸瓦や軒平瓦等の瓦、仏教行事に関わる土器の仏鉢や灯明皿、仏教、寺院の施設や造営に関わった人物名等の文字が墨書された土器、建物基礎の基壇を化粧した土製のレンガである塼（せん）、正確な用途は分かっていませんが、信仰の対象であり、実際の塔やお堂の代わりとして使われた土製のミニチュアの瓦塔・瓦堂、建物の修繕等に使用する金属製品をつくった鍛冶（かじ）のフイゴの送風管である羽口（はぐち）、また製品の釘等です。

現在、江南文化財センター及び市立熊谷図書館の 2 会場において、指定を記念しての展示を行っています。この機会にぜひご覧ください。（吉野）



市立熊谷図書館郷土資料展示室の展示
(上段が軒丸瓦・軒平瓦、左が瓦塔)

熊谷うちわ祭—石原区・本石区の調査—

うちわ祭初日の午前 6 時、愛宕八坂神社で渡御発興祭が執り行われるのは有名ですが、その 1 時間前に石原の八坂神社で、石原区と本石区だけの例大祭が執り行われているのを皆さんはご存知でしょうか。

現在は 12 か町からなるうちわ祭ですが、はじめは地区ごとに祭礼が行われていました。旧石原村の屋台がうちわ祭に参加したのは、熊谷市制が施行された昭和 8 年からとされ、それまでは熊谷の祭とは別に八坂祭を行っていました。そのため、今でも例大祭は別々に行われているのです。

熊谷市教育委員会では、今後、石原区・本石区の屋台調査を予定しており、その前段階として祭礼行事の調査を行いました。

7 月 20 日午前 5 時、石原の八坂神社では、神官に宮司を迎え、氏子の司会進行により、式典が厳かにはじまりました。神官による祝詞奏上、玉串奉奠、来賓挨拶等内容のほとんどは渡御発興祭と同じですが、大きな違いは、御幣の伝達が行われる点です。他の町区については、2 日目の巡行祭のなかで行われますが、石原区と本石区は一足早く御幣の伝達が行われるため、この 2 台は初日から屋台に御幣をつけて巡行しています。（山川）



令和 8 年 7 月 20 日午前 5 時前の
石原八坂神社の様子

市内遺跡発掘情報

上之土地区画整理地内発掘調査(速報)

今年度の発掘調査は、前中西遺跡範囲の中央北端付近の街路築造予定地で実施しており、調査面積は約600㎡です。

調査は6月末から開始し、これまでに弥生時代中期の竪穴建物跡が少なくとも2軒、溝跡4条（うち1条は弥生時代中期、2条は中世（15世紀頃））、礫集積土坑（15世紀代）のほか、井戸跡2基、ピット（柱穴等の小さな穴）多数が検出されています。

なお、現段階では判然としていませんが、古墳時代前期の竪穴建物跡が近接して数軒所在すると思われる箇所があります。

弥生時代の溝跡からは小型壺や石鍬等が、中世の溝跡からは在地産片口鉢や梅瓶の破片、砥石等が出土しました。同じく中世の礫集積土坑では、河原石に混じり、板碑破片のほか常滑産片口鉢・甕、古瀬戸産鉢・瓶子等や土師質土器皿の破片等が見られます。なお、この礫集積土坑は、どうやら古墳時代前期の竪穴建物跡を壊して造られたようです。（吉野）



礫集積土坑(右は、丸囲み内の板碑出土状況)

上之土地区画整理地内遺跡整理調査について

上之土地区画整理事業地内には、上之古墳群、諏訪木遺跡、中西遺跡、箱田氏館跡、藤之宮遺跡、前中西遺跡と多くの遺跡が所在しており、街路築造工事等に伴い発掘調査を実施した遺跡については、整理調査を実施し、その成果を報告書として刊行しています。

令和8年度の整理調査は、平成28年度に発掘調査を実施した諏訪木遺跡について実施しています。この調査では、古墳時代の集落や墓、江戸時代の墓などが見つかり、前者からは多数の土器、後者からは人骨のほか副葬品として死者が三途の川を渡る際の渡し賃である六文銭（銭貨）や陶器などが出土しました。今年度は、これらの遺物について整理調査を行い、来年度末に報告書を刊行する予定です。（松田）



銭貨の洗浄作業

連載 くまがやの古墳群

③4 野原古墳群—全国的に有名な「踊る埴輪」を出土した古墳群—

野原古墳群は、江南地区の野原、和田川の左岸、同河川を南に望む江南台地の東縁部付近、標高45～50mに立地します。

現在20数基の古墳が確認されており、大半が台地の南端沿い付近に東西に広く分布しています。いわゆる「踊る埴輪」（現行資料名「踊る人々」）を出土した前方後円墳の野原古墳を除き、いずれも円墳です。

踊る埴輪の発見のきっかけは、昭和5（1930）年、開墾中、人物や馬形の形象埴輪、勾玉、耳環、刀、鉄鏃が出土したことで、この時の人物埴輪の中に踊る埴輪があり、この場所が正に野原古墳であったのです。

野原古墳は、後の発掘調査により、推定全長約40m、後円部高5mの前方後円墳で、埋葬施設である凝灰岩切石積みの横穴式石室が2基あることが分かりました。後円部のものは西に開口する片袖直線胴型、前方部にあるものは南に開口する片袖胴張型です。また副葬品として、前者では大刀、刀子、鉄鏃が、後者では大刀、刀子が出土し、前者がやや古く6世紀後半、後者が6世紀末のものと考えられます。なお、この調査では、大刀形や翳（さしば）形の器財埴輪も出土しており、豊富な形象埴輪群をもつ古墳でした。

当古墳群は、野原古墳を筆頭に、6世紀後半～7世紀前半代の築造と推定されます。（吉野）



野原古墳 墳丘測量図(墳丘推定図)

文化財センター通信

◇夏休み企画「あなたも古代人！」

令和8年度夏休み企画「あなたも古代人」について、7月28日～8月7日にかけて、「踊るはにわづくり」、「まが玉づくり」及び「はにわストラップ・拓本づくり」の体験講座を計10回開催し、計115名の参加者がありました。

本講座を通じて、古代の人々の暮らしに思いを馳せるとともに、熊谷市の歴史に関心を持っていただく一助となれば幸いです。(須藤)



◇「みんなで歩こう！中山道」事業

江南文化財センターでは、昨年度に引き続き「みんなで歩こう！中山道事業」を実施しています。

5月には、中山道や熊谷宿の歴史に造詣の深い先生方をお招きし、全3回にわたる講座「みんなで学ぼう！中山道」を開講しました。各回ともたくさんの方に受講いただき、盛況のうちに終了いたしました。

10月には、実際に中山道を歩く体験イベント「みんなで歩こう！中山道」を開催します。道中では、ボランティアガイドによる解説も予定していますので、ご興味がございましたら、ぜひこの機会にご参加ください。(小林)



◇「星溪園の石造物」パンフレット刊行

熊谷市指定文化財記念物名勝「星溪園」(熊谷市鎌倉町32番地)の庭園に所在する石造物19点を解説したA3版パンフレットを刊行しました。

星溪園は、竹井澹如(たんじょ:1839～1912)が明治初年頃つくった別邸で、庭は回遊式庭園となっており、澹如が集めた名石・古塔を始め、句碑・歌碑が配置されています。

パンフレットは正門脇に置いてありますので、パンフレットを片手に園内を散策ください。

また、現地各石造物の脇に設置した二次元コードをスマートフォンで読み取ると、より詳細な説明を見ることができます。右の二次元コードからも見ることができますのでご覧ください。(森田)



【文化財探訪】—市指定名勝「星溪園」について—

本市の中心市街地を流れる星川。現在は荒川から水を引いていますが、以前は鎌倉町の「玉の池」の湧水を水源としていました。熊谷市が誇る偉人の一人で、明治期の熊谷を、そして埼玉県をリードした竹井澹如が明治5年頃に築庭したとされる市指定名勝「星溪園」は、以前は「池亭」と呼ばれ、その名のとおり玉の池を中心に配し、四季の移ろいを落ち着いた雰囲気演出する、本市の歴史文化を具現する回遊式庭園です。

終戦前夜の「熊谷空襲」により2棟の建物を焼失しましたがその惨禍に耐え、昭和25年に市の所有となり、翌年に「星溪園」と名称を変え、昭和29年に市指定文化財(名勝)となりました。澹如の時代からの文化財指定されていた建物は、老朽化のため平成3年度に建替え工事を行いました。その方針は、当時の建物の「復元」に近い形で、文化財保存の立場から、庭園美と調和する建物として整備する、としました。

現在、商業観光課による社会実験として、令和7年度秋に星溪園ガーデンカフェと雲海ミストを行い、令和8年度は11月20日から12月26日までの期間内で、夜間ライトアップの日を設ける予定です。定期的なお茶会などの「和」の文化に親しむ場所として、また、安らぎを感じる「静」の空間として、文化財庭園「星溪園」は本市の魅力を発信しています。(大井)



文化財コラム 中山道の旅 最終回

今回は、熊谷警察署前交差点から西へ約500mの国道17号線との分岐点まで足を進めました。では、また旅を続けることとします。

ここからは再び国道17号線とは別のルートを進みます。約200m進むと、新島の「一里塚」(市史跡)に辿り着きます。この一里塚は北塚のみ現存し、かつては青々と茂ったケヤキの巨木がありましたが、現在は失われています。

そして、約150m進むと、南に「忍領石標」(県旧跡)が見えてきます。これは、「従是南忍領(これよりみなみおしりょう)」と刻まれたかつての忍藩の境界標で、忍藩が建てた16か所のうちの一つです。

この先は、大里農林振興センターのところで国道17号線と交わるまでひたすら歩きます。そして、その後は、国道17号線の北側のルートを歩くことになります。約100m歩みを進めると、玉井堀を渡る「筋交(すじかい)橋」があります。江戸時代、ここは幾筋もの川が流れ、満水時は人足による渡しが行われたほどの難所であり、ここで足止めを食らった旅人は、この東と西にあった茶屋で休んで待ったといわれています。その茶屋の名残があるのが、約250m西にある「下茶屋集会所」です。

では、足を進めることとします。下茶屋集会所から約150m、国道17号熊谷バイパスを越え、さらに西へと約650m歩みを進めると、北側に大きなピンク色の玉のモニュメントが見えてきます。この地は「玉井」であり、その地名の由来は、一説では井戸を掘ったときに宝玉2つが出てきたので「玉の井」と呼ぶようになったことからだといい、この玉のモニュメントもこれに由来します。

そして、さらに600m程歩くと、奈良堰用水に架けられたかつては石橋であった「市右衛門橋」にたどり着きます。この市右衛門は、旧下奈良村の名主であり篤志家であった吉田市右衛門のことで、私財を投じて土橋を石橋に架け替えるなど整備したため、橋に名前が付けられました。

次は、市内での最後の見どころです。ここから西へ約350m進むと、南側に「明治天皇御小休所趾」の石碑が見えてきます。幕末の1861年、公武合体の政略による皇女和宮降嫁の際には、和宮がここにあった籠原立場(たてば)で休憩し、またゴボウと茶漬けが名物であった「しがらき茶屋」がありました。

市内中山道歩きもいよいよラストスパートです。ここから約700m進むと深谷市境になり、市内中山道の旅は終わりになります。因みに、深谷市に入ってすぐのところには東方の「一里塚跡」があります。

5回にわたって紙上で中山道を旅してきましたが、いかがでしたでしょうか。皆さんもぜひご自分の脚で歩き、当時の中山道の旅に思いを馳せていただければと思います。(吉野)



新島の市史跡「一里塚」
(石垣が塚の残存部)



県旧跡「忍領石標」

【池上遺跡—古代集落編—展】

江南文化財センターホールで、5月7日から10月30日までの期間で、令和2～4年度に「道の駅くるん熊谷」整備事業に伴う事前の発掘調査を行った、池上遺跡の成果を展示しています。

発掘調査では、弥生時代・古墳時代・古代(奈良・平安時代)の集落が確認されており、時代別に3回に分けて展示します。今回は、古代集落編として、大量に出土した墨書土器(墨で「中」「草」「原」「足」「家」「子田」「止」などを記した土器)を中心に展示しています。この機会にぜひご覧ください。(大野)



編集後記

今年の夏もやはり暑くなりました。また国内各地で、地震や豪雨による災害が発生しています。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

本年度後半が、穏やかな日々であることを祈ります。(森田)

発行：令和8年9月17日(2026/9/17)

熊谷市立江南文化財センター(熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係)

〒360-0107 埼玉県熊谷市千代329番地

Tel: 048-536-5062 FAX: 048-536-4575 Mail: c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp